

4. 参考資料

調査問題作成の基本的な考え方

調査問題は、各設問の正答率や誤答の状況から課題の有無を把握し、学習指導の改善・充実を図ることができるよう、特に、次の点に配慮して作成しています。

- ① 学習指導要領の理念・目標・内容等に基づくものとし、小学校の調査問題については小学校第5学年までに、中学校の調査問題については中学校第2学年までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられるものを、各領域等からバランスよく出題すること。
- ② 主として「知識」に関する問題（A）と主として「活用」に関する問題（B）を作成すること。
- ③ 教員による指導方法の改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等につながるよう、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題を出題すること。
- ④ 児童生徒が時間的余裕を持って解答に取り組むことができるよう、問題の分量が、調査時間（解答時間）に照らして適切なものとなるよう努めること。
- ⑤ 「4年間のまとめ」(※)で指摘した課題や平成24年度～27年度調査で見られた課題を踏まえた問題も出題すること。

※ 国立教育政策研究所において、平成19～22年度の4回の調査結果を分析して、成果と課題を整理した報告書（概要は、次頁を参照）

全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～（概要）

○ 国立教育政策研究所において、平成19～22年度の4回の調査結果を分析して、「成果」と「課題」を整理した報告書

「成果」として認められる内容（一例）

小学校国語	比較的自由度の高い条件で記述すること
小学校算数	示された図形の面積を求めること
中学校国語	話の内容から必要な情報を的確に聞き取り、適切な質問をすること
中学校数学	図形領域で、作図の手順の理解、基本的な平面図形の性質の理解、証明の中で根拠として用いられる平行線の性質の理解、2つの三角形が合同であることを判断する際に必要な辺や角の相等関係を指摘すること

課題として考えられる内容

小学校国語

- <「話すこと・聞くこと」における課題>
 - ① 司会の役割を果たしたり、立場や根拠を明確にしたりして話し合うこと
- <「書くこと」における課題>
 - ② 調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと
- <「読むこと」における課題>
 - ③ 物語に登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係を捉えること
 - ④ 目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらを関係付けて読むこと
- <「言語事項」(※)における課題>
 - ⑤ 複数の内容を含む文を分析的・統合的に理解すること

中学校国語

- <「話すこと・聞くこと」における課題>
 - ① 資料の提示の仕方を工夫し、その方法を説明すること
- <「書くこと」における課題>
 - ② 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと
- <「読むこと」における課題>
 - ③ 目的をもち、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと
- <「言語事項」(※)における課題>
 - ④ 辞書に書かれている記述から、語句の意味を適切に捉えること

※学習指導要領（平成20年告示）では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

小学校算数

- <「数と計算」における課題>
 - ① 乗法や除法の意味を理解すること
- <「量と測定」における課題>
 - ② 求積に必要な情報（図形の長さ及び図形の性質）を取り出して面積を求めること
- <「図形」における課題>
 - ③ 図形の性質を基に事象を判断すること
- <「数量関係」における課題>
 - ④ 計算の順序についてのきまりなどを理解すること
 - ⑤ 割合の意味を理解すること

中学校数学

- <「数と式」における課題>
 - ① 方程式における移項の意味を理解すること。方程式をつかって問題を解決するために数量の関係を捉えて2通りに表せる数量に着目すること
- <「図形」における課題>
 - ② 証明の必要性和意味を理解すること。円柱と円錐の体積の関係を理解すること
 - ③ 「数量関係」における課題
 - ③ 2つの数量の関係が比例・反比例・一次関数の関係になることを理解すること。二元一次方程式の解を座標とする点の集合は直線として表されることを理解すること
- <記述式問題における課題>
 - ④ 予想した事柄を数学的な表現を用いて説明すること（事実・事柄の説明）
問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明すること（方法の説明）
事柄が成り立つ理由を説明すること（理由の説明）
- <数学的に表現したり、数学的に表現されたものの意味を読み取ったりすることにおける課題>
 - ⑤ 関係や法則などを式に表現したり、式の意味を読み取ったりすること

「解答類型」について

- 全国学力・学習状況調査では、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握できるよう、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのものとして、「解答類型」を設けています。
- 正誤だけではなく、一人一人の誤答の状況（どこでつまづいているのか）に着目して、学習指導の改善・充実を図ることができます。

(例) 平成28年度調査 小学校 算数A⑨

(2) バスに乗っている人数は60人です。乗っている人数は、定員よりも定員の20%多いそうです。

定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を、百分率を使った次の図に表します。



図の中の「ア」と「イ」には、下の4つの数のいずれかが入ります。

「ア」と「イ」に入る数をそれぞれ書きましょう。

20 80 100 120

【解答類型と反応率】

	ア	イ	反応率 (%)
1(正答)		120と解答	51.2
2	100と解答	20と解答	2.6
3		類型1, 2以外を解答 無解答	0.9
4	80と解答		13.2
5	20と解答	100と解答	2.9
6	類型1から類型5以外を解答 無解答		0.5
7	20と解答	120と解答	3.9
8	80と解答	20と解答	3.7
9	上記以外の解答		15.5
0	無解答		5.6

基準量の捉え方を誤っている(乗っている人数を基準量として、定員は乗っている人数より20%少ない80%であると捉えている)と考えられる。

調査の活用について①

1. 解説資料

- 調査実施後、速やかに（調査結果の返却を待たずとも）児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握し、学習指導の改善・充実に取り組む際に役立てることができるよう作成。

(調査実施日当日に国立教育政策研究所ホームページに掲載するとともに、各教育委員会・学校に対し、速やかに冊子を配布。)

- 各問題について、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。



2. 報告書

- 調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に取り組む際に役立てることができるよう作成。

(結果公表日当日に国立教育政策研究所ホームページに掲載するとともに、各教育委員会・学校に対し、速やかに冊子を配布。)

- 設問ごとの正答率、解答類型ごとの反応率、分析結果と課題、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。



調査の活用について②

3. 授業アイデア例

- 課題が見られた事項について、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして作成。

(調査結果公表後、速やかに国立教育政策研究所ホームページに掲載するとともに、各教育委員会・学校に対し、冊子を配布。)

- 設問を3～4問程度取り上げ、各事例について1ページ又は見開き2ページで一覧できるように構成。
- 課題の解決に向けて3つのタイプを設けている。
 - ・TYPE I：児童生徒のつまずきの状況を把握し、解決を図る。
 - ・TYPE II：短時間で知識・技能の定着を図る。
 - ・TYPE III：数時間にわたる学習過程の中で、知識・技能の習得と活用を図る。



4. 説明会の開催等

- 教育委員会の担当指導主事等を対象に、調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実等について説明（今年度は、9月27日（火）に東京、10月4日（火）に兵庫で開催）
- 教育委員会が開催する研修会等に学力調査官を派遣

教育委員会や学校での活用事例

学校では…

◎調査問題を対象学年の先生方だけでなく、他の先生と一緒に解いてみる。
そして、解説資料や報告書等を参考としながら、どのような力が必要なのか考える。

◎調査実施後、児童生徒の解答を自校で確認する。
その際、解説資料を参考としながら、児童生徒の誤答傾向や不十分な解答を把握し、弱点・つまずきを捉える。

◎解説資料や報告書の「学習指導に当たって」を参考として、指導計画の改善・充実を図る。

◎調査問題や解説資料、報告書、授業アイデア例を参考として、授業で扱う教材づくりや学習の成果を評価するための問題づくりの参考とする。

◎校内での授業研究において、調査問題に関連した課題を取り上げる際、解説資料や報告書等を参考としながら、全国学力・学習状況調査との関係を学習指導案に明記する。

教育委員会では…

◎各教育委員会等での研修会等において、調査問題に関連した課題を取り上げ、解説資料や報告書をもとにして検討する。
その際、関連する過去の問題に当たったり、授業アイデア例を参考にしたりして、授業づくりを行う。

調査問題には、問題ごとに学習指導の改善・充実に向けたメッセージがあります。日々の授業における様々な場面において、1問からでも取り上げていくことが可能です。全国学力・学習状況調査の調査問題や解説資料、報告書、授業アイデア例を一層お役立ていただき、先生方の日々の指導のアイデアが広がっていくことを期待しています。

